

街を行く

第72回 松山 Matuyama

文学者と軍人と鯛めし

電車で岡山から松山まで旅をしてきました。その道すがら、懐かしい地名の街をたくさん通り過ぎました。懐かしいとはいえ住んだことも訪れたこともなく、かつて名前を耳にしていただけなのですが…。さあ今回は松山の街を紹介していきましょう。

みなさん、松山の著名人と言えば誰を思い浮かべますか？

夏目漱石、それとも正岡子規でしょうか。近代の文学と俳句の巨星とくれば、松山には芸術の風薫る繊細で女性的な街のイメージが湧いてきますね。でも、こう書くと「ちょっと待った!」と異を唱える声も聞こえてきそうです。松山は明治の偉大な軍人、秋山兄弟が生まれ育った益荒男な地でもあります。ちなみに弟の真之は、優秀な軍人であった一方で正岡子規の親友でもあったという話は…、司馬遼太郎の「坂の上の雲」をぜひ読んでみてください。

松山の名勝といえば「道後温泉」があります。小生が訪れた日は修学旅行生でごった返していました。街中に近い立地は、湯治場であることを踏まえると非常に珍しいケースですね。

街の主な移動手段は路面電車です。路面電車がいまも現役な都市は意外と多く、広島や岡山、熊本等々、挙げたらキリがないほどです。市民の“脚”として使われる一方、観光の呼び物にもなっています。本連載「広島」の回でも考察しましたが、路面電車は普段の生活利便性から考えると交通渋滞を起こす原因でしかないかもしれません。ですが(何を今更とも思うのですが)



道後温泉と松山の街並み。典型的な地方都市ですね

観光資源としてなら風情があって良いものですね。

街の顔はお城。ドンと中心に構え、それを街が取り巻いている格好です。街中にある地方自治体施設は江戸の武家屋敷跡、明治時代の軍施設でした。地方の街って根本的な部分では何も変わらないのかもしれませんがね。

食の話をしますと、ここで食べた鯛めしは最高でしたね。出汁と卵を解いて、あったかいご飯にのつけた鯛の切り身にぶっかけます。ふつう想像するのは、焼いた鯛を一尾まるごと乗せた炊き込みご飯ですが、小生が食べたのは、正しく言うと「宇和島の鯛めし」だそうです。この斬新さは少しはまります。「名

物に旨いものなし」とは言うものの、現地で食べる郷土料理はやっぱり格別ですよ！

街と郷土料理は文化の両輪ですから。大切に見守っていきましょう。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。